

日清製粉グループ 第1四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

[2021年3月期第1四半期連結累計期間決算]

売上高	1,656億85百万円（前年同期比105.0%）
営業利益	51億86百万円（前年同期比83.3%）
経常利益	64億63百万円（前年同期比88.4%）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	43億33百万円（前年同期比97.8%）

㈱日清製粉グループ本社（社長：見目 信樹）の2021年3月期第1四半期連結累計期間につきましては、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、国内外の経済活動は大きく制限され、消費や生産活動の停滞、雇用情勢の悪化等、極めて厳しい状況が継続しました。

このような中、当社グループは、社会的使命である小麦粉をはじめとする「食」の安定供給の確保に最優先で取り組み、また、その使命を支える従業員の安全確保に努めました。各事業におきましては、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」で描く目指す姿の実現に向け、更なる成長の基盤づくりを着実に進めました。

当第1四半期の業績につきましては、売上高は国内製粉事業における本年1月の小麦粉価格改定や設備工事の減少等の減収要因があったものの、昨年7月に連結子会社化したトオカツフーズ株式会社の新規連結効果等により1,656億85百万円（前年同期比105.0%）となりました。一方、利益面では、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、食品需要の内食シフトが起こり、家庭用食品の需要が大幅に増加したものの、国内製粉事業の販売収益悪化、及び海外製粉事業の販売低調などによる収益悪化等により、営業利益は51億86百万円（前年同期比83.3%）、経常利益は64億63百万円（前年同期比88.4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は43億33百万円（前年同期比97.8%）となりました。

[2021年3月期通期連結業績予想]

新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の社会及び経済の先行きは極めて不透明な状況にあります。このような中、当社グループは、主要食糧等の安定供給という社会的使命かつ企業価値の源泉を堅持すべく、事業環境の変化に適合しつつ、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の実現に向けて引き続きグループ一丸となって取り組んでまいります。

2021年3月期の業績見通しにつきましては、当第1四半期の業績がほぼ想定どおり推移していることから、売上高は7,000億円（前期比98.3%）、営業利益は260億円（前期比90.1%）、経常利益は270億円（前期比85.9%）、親会社株主に帰属する当期純利益は170億円（前期比75.9%）と、当初予想を据え置いております。

業績見通しの前提としましては、新型コロナウイルス感染症の一時的な拡大と収束が年間を通じて繰り返されつつ、徐々に回復に向かうと想定しており、当社製品の需要も、経済活動の停滞及び再始動のサイクルの中で、中食や外食における食品消費の減少、設備工事の一時的な中断等の影響を受けることが考えられます。引き続き当社グループの事業への影響を慎重に見極め、今後修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向の基準を40%以上とし連続増配により配当の上積みを図る基本方針のもと、当初の予想どおり、前期より1円増額の1株当たり年間35円を予定しております。